

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動学			時 間 数	90
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	3
担当講師	竜田 庸平	取得資格	認定理学療法士、教育学修士		
		実務経験	有	経験年数	16
授業内容	・ 人体の筋腱骨の運動 ・ 人体のバイオメカニクス(歩行、運動理論) ・ 運動学習と脳機能				
到達目標	・ 人体の運動を解剖学的知識で使って説明できる。 ・ 脳機能と運動学習過程を生理学的知識で説明できる。 ・ 正常歩行と異常歩行の違いを観察できる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	運動学という言葉の意味、運動学に必要な公式(4時間)
2	運動の法則、基本肢位、面と軸(4時間)
3	骨の種類、構造、代謝(4時間)
4	関節の種類、構造、軸(4時間)
5	神経の種類、構造、生理学的知識(6時間)
6	随意運動と不随意運動、反射、姿勢制御(6時間)
7	筋収縮の過程とエネルギー代謝(4時間)
8	上肢の運動学(肩関節 4 時間、肘関節 4 時間、手関節 4 時間、手指 4 時間)
9	下肢の運動学(股関節 4 時間、膝関節 4 時間、足関節 4 時間)
10	体幹の運動学(4時間)
11	骨の触診技術(6時間)
12	腱の触診技術(6時間)
13	正常歩行と異常歩行(4時間)
14	運動学習と記憶(4時間)
15	脳機能と運動学習過程(6時間)

テキスト 参考書等	中村隆一;基礎運動学,医歯薬出版 中島雅美;PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート,医歯薬出版
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験 小テスト 本試験 を総合して100点満点

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	障害学			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	平島 陽子	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	16年
授業内容	神経難病の障害像、疾患別の理学療法評価、リハビリテーションの実際およびリスク管理について理解する。				
到達目標	1. 神経難病の障害像について理解する。 2. 疾患別の理学療法評価を实践できる。 3. 疾患別の理学療法の進め方とリスク管理について理解し、実践できる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	難病、神経・筋疾患 総論
2	パーキンソン病のリハビリテーション
3	筋委縮性側索硬化症のリハビリテーション
4	脊髄小脳変性症のリハビリテーション
5	多発性硬化症、ギランバレー症候群のリハビリテーション
6	重症筋無力症のリハビリテーション
7	筋疾患に対するリハビリテーション(多発性筋炎、筋ジストロフィー)
8	後縦靱帯骨化症のリハビリテーション
9	ケーススタディ
10	
11	
12	
13	
14	
15	

テキスト 参考書等	石川朗:神経障害理学療法学Ⅱ. 中山書店
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 70 点 実技試験 30 点

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	リハビリテーション概論			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	小川 哲史	取得資格	認定理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	28
授業内容	リハビリテーションの語源、障害について、ノーマライゼーション、資格制度など専門職に必要な講義を実施。				
到達目標	リハビリテーションとは何かを理解し、理学療法士として他職種と連携しながら業務をすすめるために、その意義を学ぶ。リハビリテーション専門職としての役割を学ぶ。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	リハビリテーションとは何か(2 時間)
2	リハビリテーションの歴史(2 時間)
3	リハビリテーション専門職職域(2 時間)
4	身体機能障害について(2 時間)
5	アセスメントとは(2 時間)
6	ICHD、ICF について(2 時間)
7	疾患別理学療法の関わり(中枢疾患)(2 時間)
8	疾患別理学療法の関わり(運動器疾患)(2 時間)
9	疾患別理学療法の関わり(内部障害疾患)(2 時間)
10	疾患別理学療法の関わり(小児疾患)(2 時間)
11	疾患別理学療法の関わり(特定疾患)(2 時間)
12	リハビリテーション専門職の連携(2 時間)
13	リハビリテーション専門職の人材登用、育成(2 時間)
14	リハビリテーション政策(2 時間)
15	リハ関連機器について(2 時間)

テキスト 参考書等	学生のためのリハビリテーション医学概論(医歯薬出版株式会社)
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト